

2022.9.15



地域日本語支援ニュース こだま 第 423 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

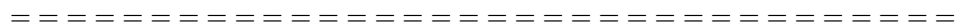


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■私たちの挑戦：ロヒンギャ学習支援の現場から■

日本には、ミャンマーの少数民族であるロヒンギャの人々が約 300 人在住し、その多くが群馬県館林市で暮らしています。子どもたちの大半は日本で生まれ、地元の学校に通いますが、学校の勉強についていくのは簡単なことではありません。そんな子どもたちのためのオンライン学習支援教室が、今年 2 月から開講されています。この事業の総括コーディネーターをされている名城大学外国語学部教員の宮下大夢（みやした ひろむ）さんに、活動の様子や今後の課題について伺いました。

.....

たてばやしオンライン学習支援教室
—試行錯誤の半年間を経て—
総括コーディネーター 宮下 大夢

◆ホームルームと個別学習の 90 分

「こんにちは～!」「みんな元気だった～?」お盆休み明けのある日の午後4時、ロヒンギャの子どもたちの元気な声が Zoom 上に響きます。小学1・2年生の前半クラスが始まりました。教室開始前には、教室担当者、アシスタント、ボランティアの方々からなる支援者全員が集まり、その日の流れや連絡事項を確認して、子どもたちの入室を待っていました。

「夏ドリル終わりましたか～?」「終わった!」「作文も終わったよ～」最初にホームルームで出席を取り、それぞれの夏休みの宿題の進捗や学習する内容を確認します。子どもものとなりで様子をみてくださっていたお母さんの一人が、「さくぶんにまちがいがいいかみてください」と要望を伝えてくださいました。その後、子どもたちとボランティアの方がペアになり、ブレイクアウトルーム（小部屋）に移動して1時間ほどの学習活動を行います。最後はホームルームに戻り、学習の振り返りをして、みんなでクイズなどを楽しみます。これで前半の90分クラスが終わります。そして、その10分後には後半クラスの子どもたちが元気いっぱいに入室してきます。

◆日本に暮らすロヒンギャ

ミャンマーに暮らすイスラム系少数民族のロヒンギャは、軍事政権時代から半世紀にわたり基本的人権が否定され、国籍も与えられていません。また、ミャンマー軍による迫害や暴力によって、大規模な難民流出が繰り返し発生してきました。これらは世界で最も深刻な犯罪である「民族浄化」や「人道に対する罪」に該当するといわれています。

日本国内にも避難してきたロヒンギャの方々300名ほど暮らしており、そのほとんどが群馬県館林市に集住しています。難民認定されているのは数家族であり、多くが「人道配慮による在留特別許可」を付与されています。子どもたちの大半は日本生まれですが、保護者の多くは日本語を十分に話すことができず、家庭内で勉強をみるのが困難です。そのため、子どもの学習支援を切望する保護者の声が年々高まっていました。

◆「たてばやしオンライン学習支援教室」開講

こうした要望に応えるかたちで、社会福祉法人さぽうと21（※1）は、ファーストリテイリング財団（※2）の全面協力を受けて、2022年2月1日に「たてばやしオンライン学習支援教室」を開講しました。目標は「ロヒンギャの児童・生徒が基礎学力と学習習慣を身につけ、将来の夢や目標に向かって、選択

肢を増やすことができるような学習支援」を行なうことです。教室には50名以上のロヒンギヤの小・中学生が参加しています。1・2年生クラスは月・水曜日、3・4年生クラスは火・金曜日、5・6年生クラスと中学生クラスは木・日曜日に行われ、前半・後半それぞれ90分に分かれています。コーディネーター4名、教室担当者4名、アシスタント4名に加えて、全国から参加して下さっている累計170名ほどのボランティアの方々に支えられて、教室を運営しています。

◆最大の課題は支援者不足

開講から半年間、様々な事態に直面し、試行錯誤の毎日でした。ようやく軌道に乗ってきましたが、いくつかの課題を抱えています。最大の課題は、学習者の人数が多いため、圧倒的に支援者が不足していることです。また、オンライン上の教室であるため、学習者と支援者、そして支援者同士のコミュニケーションの取り方に工夫が必要だと感じています。これらの課題の解決に向けて、現在は支援者側の情報共有や意見交換の時間を可能な限り確保できるよう配慮しています。関係者一同、より良い教室づくりに取り組んでいますので、「たてばやしオンライン学習支援教室」にご関心のある方がいらっしゃいましたら、是非さぼうと21 (s21tatebayashi@gmail.com) までご連絡ください。皆さまとお会いできるのを、心よりお待ちしております。

※1 社会福祉法人さぼうと21 <https://support21.or.jp/>

※2 ファーストリテイリング財団

<https://www.fastretailing.com/jp/frfoundation.html>
